

高橋財政をめぐる論点整理

伊藤正直

〈1〉

高橋是清については、これまでかなりの事柄がとりあげられてきた。日露戦時・戦後外債の募集、第1次大戦直後の政策運営と金本位復帰不可の決断、1927年金融恐慌の鎮静化、昭和恐慌からの脱出と国債日銀引受などがそれである。3報告がカバーしている時期はそれぞれであるが、共通しているのはこのうちの最後、いわゆる高橋財政期である。そこで、この時期を主たる対象としながら、やや長い時間軸をとって先行研究を見ることから、3報告への補助線としたい。論点の第1は、高橋財政の評価軸の変遷であり、論点の第2は、財政政策と金融政策の相克と統一の問題である、これはファイナンシャーとしての高橋とセントラルバンカーとしての高橋と言い換えることもできる。